

令和4年12月28日発行

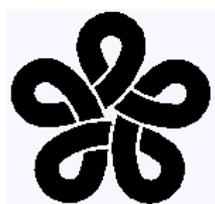
ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第49号

令和3年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.49 2021*



福岡県保健環境研究所

はじめに

令和2年1月に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、変異を繰り返す中で感染力を増し、未だに感染が拡大しています。人、動物、環境の各分野にまたがる問題を解決するため令和4年3月に策定された「福岡県ワンヘルス推進行動計画」において、当研究所はワンヘルス実践の中核拠点である「ワンヘルスセンター」となることが決まっております。現在、準備を進めているところです。また、令和3年8月14日から15日にかけて、九州北部地方を中心とした広い範囲で大雨特別警報が発令され、各地で浸水被害が相次ぎました。数十年に一度とされる大雨特別警報が、福岡県では平成29年度から5年連続で発令されたことになり、かつて異常気象と言われていたことが日常的に起こるようになってきています。

さて、当研究所における令和3年度の主な出来事や取り組みについて御紹介します。

保健分野では、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応に追われました。特に令和3年4月からの第4波（アルファ株）による感染では、県南の筑後地域において全国的にも早い時期に感染者の増加がみられ、保健所による疫学情報に加えて、ゲノム解析結果を用いた感染源・感染経路等の解析に積極的に取り組みました。その後の第5波（デルタ株）、第6波（オミクロン株）の流行時にもこの取組は継続しており、保健所等への情報提供を行っています。

医薬品関連では、令和2年度に後発医薬品メーカーで発生した品質問題によって医薬品の供給が不安定となり、深刻な社会影響が続いています。当研究所においても後発医薬品の品質試験に継続して取り組んでいるところです。

環境分野では、数年前から大気シミュレーションモデルを導入し、光化学オキシダントやPM_{2.5}高濃度発生時の原因究明及び効率的な削減対策実施のための発生源の定量的評価に関する研究を行ってきましたが、令和4年2月からは県公式LINEアカウントで光化学オキシダント・PM_{2.5}高濃度予測情報の配信を開始しました。また、生物多様性保全の観点から、里山における野生動物の生息状況及び生態系へ与える影響について調査を行いました。この調査は令和5年度まで実施し、里山の保全と再生に役立てる予定です。さらに、近年発展が著しい環境DNAを用いた野生生物の調査にも積極的に取り組んでいるところです。

新型コロナウイルス感染症の流行や地球温暖化に伴う異常気象は世界各地で起こっており、このような問題の解決には、世界の国々だけでなく、地方も可能かつ有効な取組を進めていく必要があります。その際に、人の健康、動物の健康、環境の保全を一体として考えるワンヘルスという考え方に沿って進めていくことは理にかなっており、近い将来、ワンヘルスセンターとして出発する私たちの役割に期待が高まっているところです。このように様々な問題に取り組んでいる当研究所ですが、今後とも私たちの仕事に対する御理解と御支援をよろしくお願いいたします。